

鹿児島市水道ビジョン

安心と信頼の水道 未来まで



平成21年4月
鹿児島市水道局



はじめに

鹿児島市は県都として、また、政治、経済、文化など、高次な都市機能が集積した中核都市として発展を続けています。

平成 16 年 11 月には周辺の 5 つの町(吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町)と合併し、人口も 60 万人を超え、一層の発展が期待されています。

本市の水道事業は、大正 8 年に給水を開始して以来、今年で 90 周年を迎えました。この間、市勢の発展に伴い、水源開発や給水区域の拡張など、10 回にわたる拡張事業を実施し、安定給水に努めてきました。現在は、平成 28 年度を目標年度とする第 11 回水道拡張事業計画(変更 I)に基づき事業を推進しています。

さて、水道事業を取り巻く環境は、年々厳しさを増す状況にあります。高度経済成長期に建設された施設は更新時期を迎えるなど、今後ますます費用の増加が見込まれます。さらには、水質管理の充実、水道施設の耐震化、環境負荷の低減、水道事業に対するニーズの多様化に伴うお客さまサービスの向上など、新たに取り組むべき課題があります。

また、近年、節水意識の定着、節水機器の普及、ライフスタイルの変化や景気低迷の影響などにより給水量は減少傾向にあり、収入の増加は見込まれず、今後も、厳しい事業経営が予想されます。

全国の水道事業者でのこのような状況を踏まえ、厚生労働省では、平成 16 年 6 月に、「水道ビジョン」を策定し、21 世紀初頭における今後の水道事業の取り組むべき方向性が示されました。

本市におきましても、多様化するお客さまのニーズに適切に対応し、将来にわたって安定給水を継続するため、この度、本市水道事業の将来像を定めた「鹿児島市水道ビジョン」を策定しました。

今後は、このビジョンの基本理念である「安心と信頼の水道 未来まで」を達成するため、さらに経営努力を重ねてまいりたいと考えております。

最後に、本ビジョンの策定にあたり、貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

平成 21 年 4 月

鹿児島市水道事業及び公共下水道事業管理者

水道局長 **園田 太計夫**

目次

第1章 鹿児島市水道ビジョン策定の背景と趣旨	1
1-1 鹿児島市水道ビジョン策定の趣旨	1
1-2 鹿児島市水道ビジョンの期間	1
1-3 鹿児島市水道ビジョンの位置付け	2
第2章 鹿児島市水道事業の概要	4
2-1 鹿児島市水道事業の歩み	4
2-2 給水区域	6
第3章 事業の現状と課題	8
3-1 水需要	9
3-2 普及状況	9
3-3 水源	10
3-4 水道施設	12
3-5 水質	19
3-6 お客さまサービス	24
3-7 危機管理	28
3-8 経営の状況	35
3-9 水資源の保全と環境負荷低減の取組み	38
3-10 人材育成と国際協力	40
3-11 お客さまアンケートの結果	42
第4章 将来像の設定	45
4-1 水需要予測	45
4-2 基本理念の設定	47
4-3 基本目標の設定	48
第5章 実現方策	50
5-1 安全で良質な水を供給する水道	51
5-2 いつまでも安定して供給する水道	54
5-3 お客さまとともに歩む水道	56
5-4 災害など危機に備える水道	58
5-5 経営基盤の強い水道	61
5-6 環境にやさしい水道	64

第1章

鹿児島市水道ビジョン策定の背景と趣旨

1-1 鹿児島市水道ビジョン策定の趣旨

本市の水道事業は、大正8年の通水以来、平成21年で90周年を迎えました。この間、市勢の発展や市民生活の向上に伴う水需要の増加に的確に対応するため、水源開発や給水区域の拡張を行い、安全で良質な水の安定的供給に努めてきました。

現在は、計画給水人口595,100人に対し、計画1日最大給水量233,600 m^3 とする第11回水道拡張事業計画(変更I)に基づき事業を推進しています。

しかし、近年、低迷する経済の長期化や節水機器の普及などによる水需要の減少、少子高齢化と人口減少社会の到来、地球温暖化などの環境問題の顕在化、お客さまニーズの多様化など、水道事業を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

このような中、今後においても料金収入の増加は見込めず、一方では、創設以来、整備されてきた水道施設の老朽化に伴う更新需要の増大に対応していかなければならないことから、その事業経営はいつそう厳しさを増していくものと考えられます。

一方、厚生労働省は平成16年6月に「世界のトップランナーを目指してチャレンジし続ける水道」を基本理念とする「水道ビジョン」を策定しました。この水道ビジョンでは「安心」・「安定」・「持続」・「環境」・「国際」を5つの主要政策課題として位置付けており、水道界全体で取り組んでいくこととしています。

このような状況を踏まえ、これまでに築きあげられた本市水道を次世代に引き継ぎ、将来にわたって安全で良質な水の安定的な供給を維持し続けるために、長期的見通しに立って、現状と将来見通しを分析・評価した上で、本市水道事業が目指すべき方向と目標及びその実現方策等を示すものとして、『鹿児島市水道ビジョン』を策定しました。

1-2 鹿児島市水道ビジョンの期間

鹿児島市水道ビジョンの計画期間は、平成21年度を初年度とし、平成30年度を目標年次とする10年間とします。

なお、これについては、社会的・経済的諸条件の変化を踏まえ、達成状況及び進捗状況について定期的に検証しながら、必要に応じて見直しを図るものとします。

1-3 鹿児島市水道ビジョンの位置付け

(1) 鹿児島市総合計画との関係

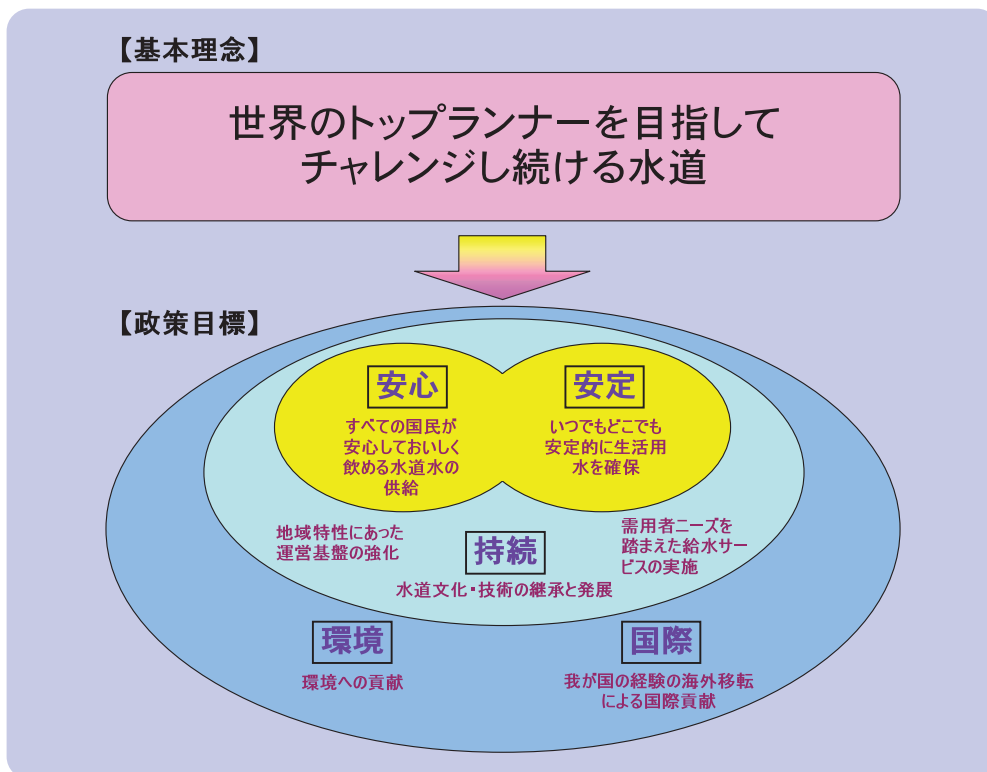
本市では、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるため、21世紀初頭における本市のあるべき姿と進むべき方向について基本的な指針を定めた「鹿児島市総合計画」を策定しています。

鹿児島市水道ビジョンは、この鹿児島市総合計画を上位計画と位置づけ、整合を図っています。

(2) 水道ビジョンとの関係

厚生労働省の「水道ビジョン」では、水道のあるべき将来像についての基本理念、政策目標について、すべての水道関係者が共通目標を持って、その実現のために取り組むよう、具体的な施策等が示されています。

図1-1厚生労働省「水道ビジョン」の概要



今回策定する鹿児島市水道ビジョンは、厚生労働省の水道ビジョンを踏まえ、これに示された施策の着実な実施、目標の達成に向けて、本市水道事業の現状と将来見通しを分析・評価した上で、その目指すべき将来像と実現のための方策等を示したものです。

図 1-2 鹿児島市水道ビジョンの位置付け

